

小中一貫教育及び小中一貫校整備の 背景（経緯）について

1 我が国の教育に関する基本認識

(1) 教育を取り巻く社会情勢の変化

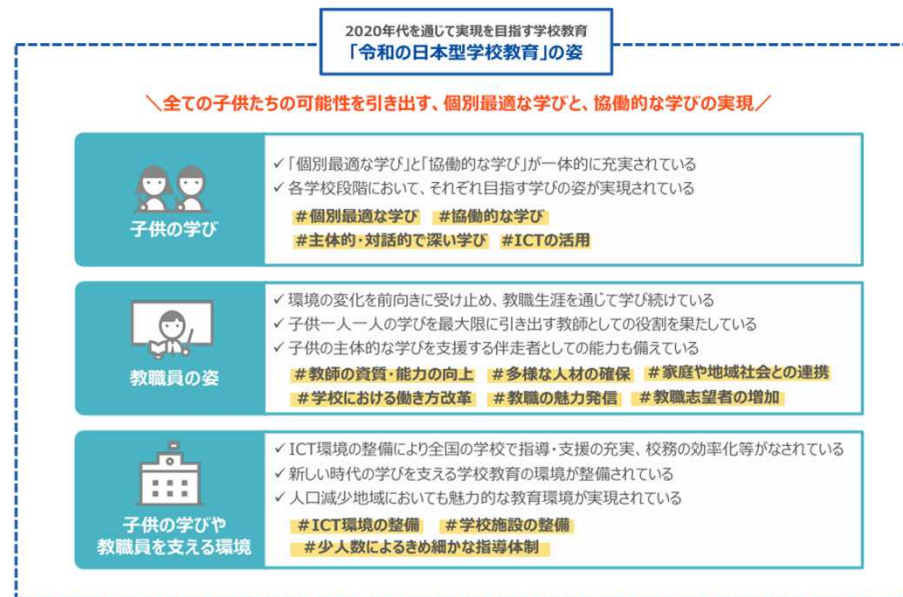
- 近年、Society5.0※時代への移行、先端技術の高度化、VUCA（変動性/不確実性/複雑性/曖昧性）と言われる予測困難な時代の到来、新型コロナの感染拡大などの社会変化に直面
- 少子化・人口減少の進行で2040年には18歳人口が約90万人（現在、約120万人）にまで減少

※Society5.0：IoTやAI、5Gなど情報のネットワーク技術の進化・高度化による革新技術を、産業や社会生活に取り入れてイノベーションを創出し、一人ひとりのニーズに応じた社会的課題を解決していこうという新たな社会の考え方。

(2) 新たな時代の教育が目指す姿

- 中央教育審議会の答申にて「令和の日本型学校教育」の構築を目指すことが示される
- 「日本社会に根差したウェルビーイング※の向上」を基本方針に掲げ、「持続可能な社会の造り手」となる能力の育成を目指す

※ウェルビーイング：身体的、精神的、社会的に良好な状態にあることを意味する概念。



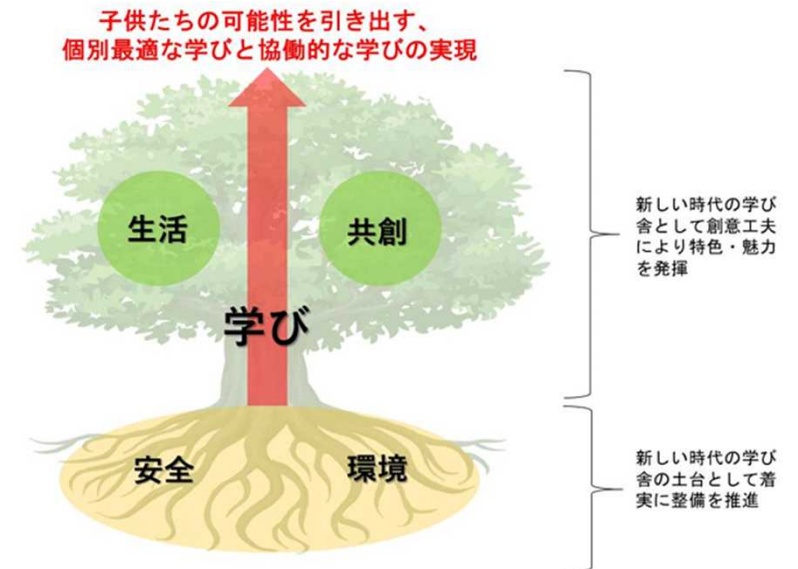
1 我が国の教育に関する基本認識

(3) 学校施設の現状と課題

- 現在の我が国の学校施設は、昭和40年代後半から50年代に建設されたものが多く、老朽化が進行
- 機能面では、画一的な教室配置が多く、多様な学習活動に対応した空間が不足
- その他にもバリアフリー化の遅れ、医療的ケアに対応したスペースの不足などの課題も多い

(4) 新たな時代における学校教育の在り方

- "Schools for the Future：「未来思考」で実空間の価値を捉え直し、学校施設全体を学びの場として創造する"というビジョンが提示
- ビジョンに基づき、「未来思考」と「可変性」の視点をもった学校教育の在り方を考える必要がある



これからの新しい時代の学び舎として目指していく姿（イメージ図）

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【全国的な状況】

- 日本全体で少子化が進行
- 多くの自治体で児童生徒数の減少、学校の小規模化が進行

- 公立小学校の約4割
- 公立中学校の約5割

が標準規模を下回っている

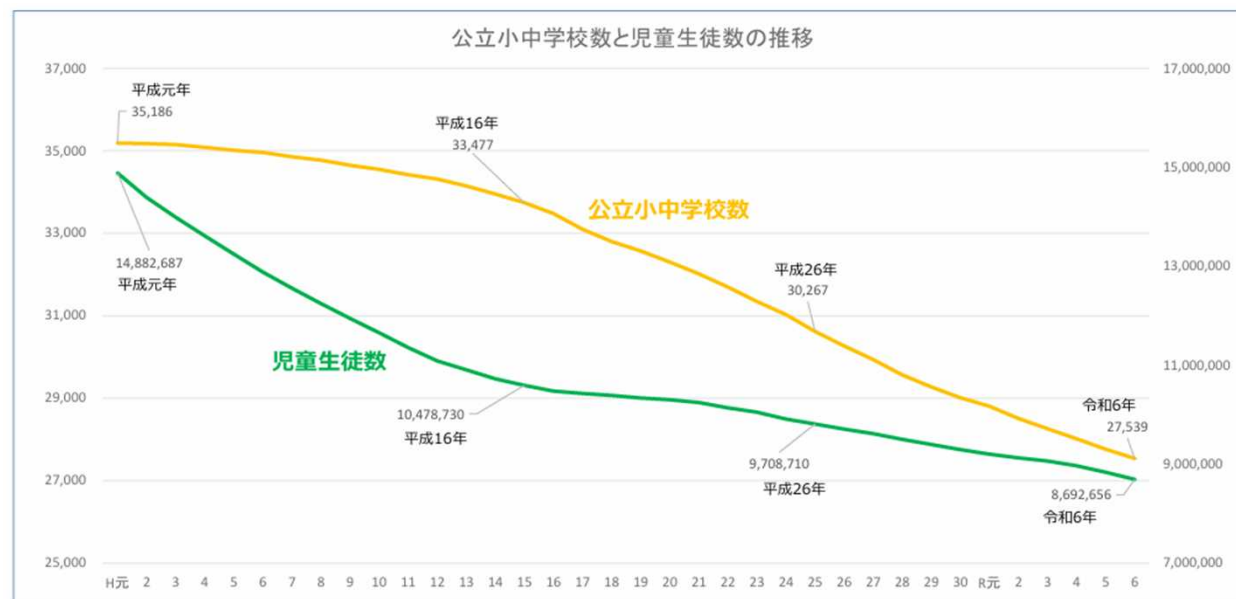


学校のあり方について将来を見据えた見直しが必要な時代へ

※参考

小学校、中学校の学級数は12学級以上18学級以下が標準（学校教育法施行規則第79条）

公立小中学校数と児童生徒数の推移



出典：文部科学省 R6年度学校基本調査

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校規模／小規模校の課題】

①人間関係・社会性における課題

- 学年1クラスなどの小規模な集団では、日常的に関わる人間関係の幅が限定され、人間関係の変化や新たな関係づくりを経験する機会が少なくなる可能性がある
- 集団の中で役割を分担したり、異なる意見を調整したりする経験が限定され、多様な価値観に触れる機会が少なくなる可能性がある

②学習面における課題

- 少人数指導は丁寧な指導につながることを期待されるが、多様な考え方や切磋琢磨する環境に触れる機会に乏しく、学習面での刺激や相互作用が生まれにくい可能性がある
- 教員体制によっては、指導の専門性や指導方法が学習成果に影響しやすい可能性がある

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-1. 我が国の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校規模／小規模校の課題】

③学校運営・行事等に関する課題

- 学校行事や部活動について、規模や内容の選択肢が限られ、合同実施や内容の簡素化が必要となる可能性がある

④将来の適応や進学に関する課題

- 小規模な集団で学校生活を送った後、中学校や高校などで大人数の集団に入ることによって、環境の変化に戸惑いや不安を感じる可能性がある
- 初対面の人と関係を築いたり、多様な人の中で自分の考えを表現したりする経験が相対的に乏しく、自己表現や対人関係に不安を感じる可能性がある

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

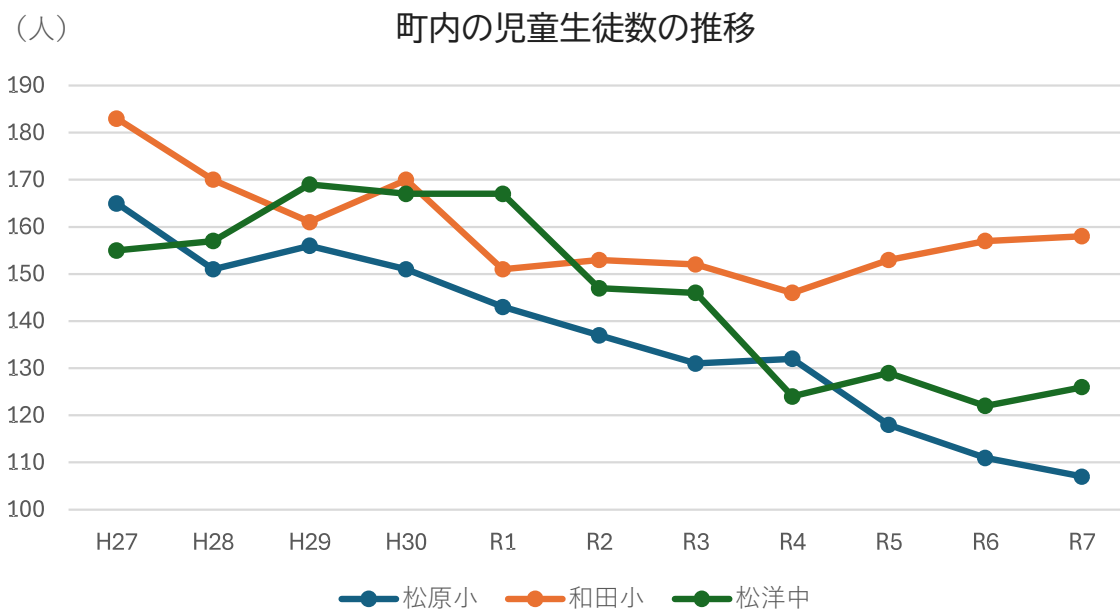
【美浜町の現状】

- 本町でも児童生徒数は年々減少
- 小学校、中学校ともに少人数での学習環境となっている
- 今後も、急激な増加は見込みにくい



学校規模の小規模化が進む中で

- 子ども同士の関わりの幅が減少する
 - 集団で学ぶ経験が減少する
 - 教職員体制の確保が難しい
- など、将来を見据えた検討が必要



出典：美浜町提供資料をもとに作成

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校施設の老朽化】

● 両小学校の老朽化

- ・ 昭和40年代に建築された両小学校は、校舎全体が建築当時の考えに基づいて造られているが、すでに建築から50年以上経過しており、建物・設備ともに老朽化が進行していることから、現在の教育に合わせた設備の更新や改修等を行うことも難しくなっている。

松原小学校



| 昭和41（1966）年竣工
| 耐震工事：平成20（2008）年
| 各教室に空調設備を設定：
平成25（2013）年

和田小学校



| 昭和44（1969）年竣工
| 耐震工事：平成21（2009）年
| 各教室に空調設備を設定：
平成25（2013）年

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-2. 美浜町の学校教育を取り巻く現状と課題

【学校施設の老朽化】

- 現校舎建築時に想定していなかった学びの多様化への対応が困難
 - ・ DX化に伴うICT機器の環境構築には、現在もその都度対応しているところではあるが、元々の校舎の造りはそういったものを利用することをまったく想定しておらず、対応に限界がある。
 - ・ 中央教育審議会より答申された「令和の日本型学校教育」では、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現が提唱されており、建設当時の画一的な教室だけでなく、個別学習や少人数学習、また、多様な他者との協働学習にも柔軟に対応することができる多目的スペース等の学習環境が必要とされている。




このような状況から、これからの時代に合わせた造りの学習環境が必要であり、現在の老朽化した校舎では、対応に限界があったり、対応できないことが多々ある。

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-3. これまでの経緯

	美浜町	国
H19年		・ 学校教育法第21条に「義務教育9年間の目標」が明記 →全国的な小中一貫教育の展開が加速
H20年	・ 三尾小学校と和田小学校が統合 → 新たな和田小学校 (三尾地区へのスクールバス運行開始)	
H27-28年		・ 「義務教育学校」を制度化する「学校教育法の一部を改正する法律」が成立・公布、翌年施行 → 法制度化
R5年	・ 12月議会の一般質問にて、「 両小学校を統合した新しい学校の建設について具体的に検討する必要がある 」と回答 →両小学校について統合に向けて取り組むことが明確になる	〈新設された制度〉 義務教育学校 ・ 1人の校長 ・ 9年間の一環カリキュラム ・ 小中免許の併有等を前提
R7年	・ 3月議会の一般質問にて、「 統合小学校の設置場所や新校舎を始めとする各種施設の概要、小中一貫教育導入の有無といったグランドデザインに着手する 」と回答 ・ 10月に「美しい美浜の学校教育に関する基本方針」および「基本構想・計画策定」の業務委託公募を実施 →12月に(株)地域計画建築研究所（アルパック）が優先交渉権者に選定、契約	 <u>自治体の実情に応じた導入が可能に</u>

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-4. 小学校・中学校が大切にしていること

【各学校の教育方針】

松原小学校



- 基本目標
自ら考え健康で心豊かな子どもの育成

- めざす児童像
 - ◇じっくり考え、表現する子ども
 - ◇自他の命を大切にしている子ども
 - ◇助け合い、励まし合う子ども
 - ◇何事にも全力を出して、最後まで取り組む子ども
 - ◇ふるさとを知り、愛する子ども

和田小学校



- 教育方針
民主的な人格の形成をめざし、心身ともに健康で豊かな人間性を培うとともに、社会の変化に主体的に対応し、意欲的に学ぶ力や生涯にわたって自己を高めていく力の育成に努める

- 教育目標
「自ら学び たくましく生きる 心豊かな子ども」
 - 進んで学ぶ子
 - 明るく思いやりのある子
 - 健康でたくましい子

松洋中学校



- 教育目標
豊かな心を持ち、たくましく生きる生徒を育てる

1. 生命を尊重する心や他人を思いやる心を持つ生徒
2. 基本的な生活習慣を身につけ、きまりを守り、自分の行動に責任を持つ生徒
3. 自主・自立の心と強い意志を持ち、実践する生徒
4. 自ら生きる目標を求め、その実現に努力する生徒
5. 感謝の心や公共のために尽くす心を持つ生徒

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-4. 小学校・中学校が大切にしていること

大切にされてきた教育の考え方


- 小学校：子ども一人ひとりに目が行き届く、きめ細やかな指導を大切に
- 中学校：学力向上とともに、社会性や主体性を育む指導を大切に

子どもの成長を支える日々の取組

- 授業や学校行事を通じた、子ども同士の関わり
- 教職員が連携しながら、子どもを丁寧に見守る取組

地域とともに育まれてきた学校

- 地域行事や学習活動を通じて、地域に支えられ、育ってきた
- 保護者、地域住民の協力による教育活動
- 学校文化や伝統の継承



これからも大切にし、
新しい学校においても
引き継ぐべき考え方

2

小中一貫校整備の検討に至る背景（経緯）

1-6. 美浜町としての現時点での考え方

これまでの整理を踏まえて...

『児童生徒数の減少や学校規模の変化』『町がこれまで大切にしてきた教育の考え方』『学校現場で積み重ねられてきた取組』などを総合的に捉えて、将来の美浜町の学校教育のあり方を考えていく必要がある。

これまでの整理を踏まえて...

町としては、『**2つの小学校の統合**』と、『**小中一貫教育の導入**』に向けた検討をスタートさせる。